

令和7年度 新宿区子ども未来基金 助成活動報告書



令和8年3月

【問合せ先】

新宿区子ども家庭部子ども家庭課企画係

〒160-8484 新宿区歌舞伎町 1-4-1

TEL : 03-5273-4261 (直通)

FAX : 03-5273-3610

E-mail : ko-kikaku@city.shinjuku.lg.jp

令和7年度新宿区子ども未来基金助成活動（20活動）

番号	活動名	団体名	活動内容	問合せ
1	ユニコーン	西新宿子ども食堂	子ども食堂	Tel : 090-4244-9048 (担当 : 井原)
2	子ども食堂	かしわぎ子ども食堂	子ども食堂	Tel : 090-1207-4919 Mail : kasiwagikodomo@gmail.com (担当 : 佐藤)
3	ニコニコ子どもパントリー ピックアップ	特定非営利活動法人キッズ 未来プロジェクト	フードパントリー	Tel : 090-3904-2801 (担当 : 猪爪)
4	ごはんと学び for 東京キッズ	Tokyo Kids Supporter	子ども食堂/学習支援	Mail : tokyokids21@gmail.com (担当 : ミア)
5	神楽坂ちびっこひろば	0歳子育て応援隊	交流会	ブログ http://Okko.blog.fc2.com/ コメント欄にお問合せください (担当 : 中村)
6	う〜みやスマイルこども食堂	株式会社アムズシーヴェイス	子ども食堂	Tel : 03-6280-7886 (担当 : 仲地)
7	多文化交流会	特定非営利活動法人みんな のおうち	交流会	Mail : natsuhiko66@gmail.com (担当 : 小林)
8	サンの家食堂	社会福祉法人サン	子ども食堂	Mail : m.yazawa@yoridokoro.or.jp (担当 : 矢澤)
9	薬物乱用防止コンサート「こ どもたちの未来のために」	新宿区更生保護女性会	薬物乱用防止啓発活動	Tel : 03-3369-8299 (担当 : 武田)
10	う〜みやスマイルこども食堂 沖縄料理体験	株式会社アムズシーヴェイス	料理体験イベント	Tel : 03-6280-7886 (担当 : 仲地)
11	大久保スポーツ広場	大久保地域文化スポーツ広 場	スポーツ体験	Tel : 090-4208-6850 (担当 : 梶山)
12	四谷ツインズ 交流会	四谷ツインズの会	交流会	Mail : yotsuya.twins@gmail.com (担当 : 佐藤)
13	四谷ツインズ10周年ファミ リーデー	四谷ツインズの会	交流会	
14	わかまつ子ども食堂	わかまつ子ども食堂	子ども食堂	Tel : 090-9835-2764 Mail : info@motohiko-suzuki.com (担当 : 鈴木)
15	みんな食堂	特定非営利活動法人キッズ 未来プロジェクト	多世代食堂	Tel : 090-3904-2801 (担当 : 猪爪)
16	☆わくわく☆クリスマススタウ ン	特定非営利活動法人 あそびと文化のNPO新宿 子ども劇場	ワークショップブース 体験	Tel : 03-5261-8696 (担当 : 松島)
17	おはなしの森 うごく絵本シアター	戸塚第二小学校 図書ボランティア	絵本読み聞かせ/ 紙人形劇	Mail : hitoyumikuma- to2toshobo@yahoo.co.jp (担当 : 本多)
18	親子で楽しむクリスマスコン サート	マミューズ	コンサート	Mail : orchestra.mumuse@gmail.com (代表) ayanosowa1215@gmail.com (担当者)
19	オーケストラマミューズへよ うこそ ～音楽の森へ出かけよう～	マミューズ	オーケストラ	
20	ちびっこ野球教室「大谷グ ロープDAY」パートⅡ	新宿区少年軟式野球連盟	野球教室	Mail : ssnbb89@yahoo.co.jp (担当 : 玉盛)

活動名：ユニコーン

団体名：西新宿子ども食堂

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎月第2・第4金曜日 17:30~18:30
開催場所	角筈地域センター 7階クッキングルーム
対象者	子ども、保護者



活動紹介

- 地域の子育て世代の親子へのお弁当の提供。安心の食材を使い丁寧な調理で、家庭の味を大事にした調理をしている。
- 現在は、事前予約制にしている。
- 子ども（高校生まで）無料、保護者は300円、非課税世帯、ひとり親家庭は無料。

活動を始めた目的

- 地域の中での孤食や孤立などを防ぎ、子育て家庭に寄り添い「食」を通じて支える活動をする。
- 困窮家庭の子どもの養育環境など身近な課題について解決に向けた働きかけを行う。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：21回

【延べ参加人数】 子ども：949名、保護者：508名、ボランティア：68名、スタッフ：284名

活動をしていく中で感じたこと

- 活動を通じ、経済的困窮の有無にかかわらず、家庭事情により孤食やゆっくり家族で食事をする機会が少ない。
- お弁当形式で品数の多い食事を提供し、物価高の中「助かる」との声をいただいている。
- 地域の企業や個人からの継続的な支援やボランティア協力に感謝している。
- スタッフの高齢化があり、若い世代の参加促進が今後の課題である。

アピールポイント

- 地域ボランティアスタッフが寄付いただいた食材を活かし、手間を惜しまず、多彩なおかずを手作りし、お弁当にして提供している。
- 「おいしい」と子どもや保護者から好評をいただき、それがスタッフの大きなやりがいにつながっている。
- 物価高などで大変な子育て家庭に、月2回でも安心してゆっくり食事ができる時間を届けたいと願っている。
- 子どもは地域の宝という思いのもと、地域全体で支え、育てるお手伝いができる活動を大切にしている。

活動名：子ども食堂

団体名：かしわぎ子ども食堂

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎月第2・4木曜日 17:30~18:30
開催場所	柏木地域センター調理室
対象者	柏木地区在住・在学の子どもと その保護者



活動紹介

会食を通して地域コミュニティの場として、また子育ての孤立を防いでいる。

活動を始めた目的

地域の居場所作りとして。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：22回

【延べ参加人数】子ども 460名、保護者 339名、ボランティア 0名、スタッフ 248名

活動をしていく中で感じたこと

お仕事帰りに、お子さんのお迎えをして寄られる方が多いようです。近くの小学校の方々のちょっとしたコミュニティになっています。

アピールポイント

幅広い年齢層のスタッフが、毎回あれこれ献立作りに励んでいます。季節感や歳時にもこだわっています。



活動名：ニコニコ子どもパントリーピックアップ
団体名：NPO 法人キッズ未来プロジェクト

活動内容	食材を配布・宅配する
開催日時	配布は月に2回（3日間） 宅配は月に1回
開催場所	新宿区大久保地域
対象者	生活保護・児童扶養手当・非課税・離婚調停裁判中・緊急に食を必要としている家庭



活動紹介

- ・毎月食材を取りに来て、持ち帰る。
- ・毎月食材を宅配する。寄付された品から選んで持ち帰る。

活動を始めた目的

こども食堂を開催していたが、家庭で食事を行うときに食材が必要であるため。取りに来られない家庭（病気・赤ちゃんがいる）には宅配便で送っている。お米の流通がなくなったときに、お米を渡した。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 配布：22回・448世帯
 宅配：11回・203世帯

【延べ参加人数】 配布：子ども998名、保護者470名、ボランティア110名、スタッフ11名
 宅配：子ども385名、保護者203名、ボランティア49名、スタッフ11名

活動をしていく中で感じたこと

- ・流通からお米が消えたとき、利用者さん家庭は困難を極めた。そんな時ほど、お米を集めなくてはならない。農家さんの協力で毎月お米を渡すことができた。
- ・段ボール箱や宅配便料金がかかり支援活動を圧迫している。

アピールポイント

袋に詰めて渡すのではなく、選んで持ち帰ってもらっている。1家庭10分で選んで持ち帰る。不要な物は持ち帰らなくて良い。買い物気分が味わえる。



活動名：ごはんと学び for 東京キッズ

団体名：Tokyo Kids Supporter

活動内容	地域のごちゃまぜ交流の場 (子ども食堂・学習支援)
開催日時	毎月第2水曜日、第4月曜日
開催場所	若松地域センター(第4月曜日) 専福寺(第2水曜日)
対象者	0歳から高校生まで誰でも(保護者も)

活動紹介

地域みんなのための居場所です。美味しいごはん
と楽しい学びを通して、様々な人が楽しくごちゃまぜ
交流できます。豊富な教材や本で、学びのサポートも
しています。専福寺では、餅つきや流しそうめんなど
の季節イベントも開催し、地域のつながりを大事にし
ています。0歳から高校生まで誰でも参加可能です。

活動を始めた目的

誰でも気軽に交流できる地域の居場所づくりを目的として、活動をスタートしました。悩みなどを抱える子どもやその保護者の孤立を防ぐため、地域でさまざまな人がごちゃまぜに交流し、地域のつながりを感じる居場所としての役割を大事にしています。また学びの困りごとにも対応し、幅広い本や教材を活用してサポートを行います。単なる子ども食堂としてだけでなく、多角的な支援を目指しています。

令和7年度活動実績(令和8年2月末時点)

【活動回数】 合計：22回

【延べ参加人数】 子ども：439名、保護者：245名、ボランティア：42名、スタッフ：135名

活動をしていく中で感じたこと

年齢も地域も様々である参加者が、一緒に本を読んだりゲームをしたりすることで、楽しいごちゃまぜ交流が生まれています。準備や後片付けにも関わってもらうことで、コミュニケーションや生活スキルを学ぶ良い機会にもなっています。ごちゃまぜ交流を通して、助けあい支えあい、他人を尊重することなど重要な学びになっていると感じます。スタッフが子どもたちの良い面をたくさん見つけることで、家庭や学校以外で褒められることが刺激になり、子どもたちのポジティブな感情を引き出しています。

アピールポイント

ごはんと学びでは、誰でも気軽に立ち寄れる地域の居場所として、様々な参加者を受け入れています。美味しいごはんをみんなで食べたり、ゲームや本で遊んだり、子どもも大人も一緒に楽しいごちゃまぜ交流の良い機会となっています。学びでは、絵本から専門性の高い英語教材、保護者向けのものまで幅広くご用意しています。さらに学習支援(指導)や困りごとの相談なども行っています。専福寺では、絵を描いたり、本を読んだり、たくさんのゲームやパズルで遊ぶことができます。お寺ならではの季節ごとの屋外イベントも開催しています。



活動名： 神楽坂ちびっこひろば

団体名： 0歳子育て応援隊

活動内容	子育て支援
開催日時	毎月第2第4金曜日 12~15時 (祝日は休み)
開催場所	高齢者施設神楽坂1階地域交流スペース(矢来町104)
対象者	プレパパママ~よちよちあんよまでの親子



活動紹介

毎回同じ助産師さんとスタッフが常駐している子育てひろば。予約不要・出入り自由・参加費1家族300円。助産師さんへの個人相談は+200円で随時受付。12:00~ママのランチと赤ちゃんの離乳食タイム・フリータイム、13:30~交流質問タイム、15:00 全員で片付けて終了。

活動を始めた目的

初めて育児をする0歳児家庭への子育て支援として2015年「0っこひろば」立ち上げ。1歳を過ぎても参加したい親子や二人目ママが増えたため、2024年から対象を広げた「神楽坂ちびっこひろば」に名称変更。

目的①専門職(助産師)と共に母子の孤立や虐待傾向を予防する

②定期的に通える居場所づくりと交流を通じた仲間づくりをする

③近所に顔見知りを増やすことで災害時に母子が災害弱者となることを防ぐ

令和7年度活動実績(令和8年2月末時点)

【活動回数】合計：22回

【延べ参加人数】子ども：421名、保護者：448名、ボランティア：1名、スタッフ：40名

活動をしていく中で感じたこと

コロナで働き方が変わり夫の育休取得も増え、一斉に4月0歳入園させる流れに歯止めがかかった。この春からは「誰でも通園制度」も始まり、3歳迄の育児環境は多様化している。ただ、制度や補助金が拡充されても新米の両親にとって初めての出産育児が大変であることに変わりはない。少子化が進む中、大都会新宿で子育てする家庭には、顔を合わせ触れ合える「集いの場」が必要であることを日々強く感じている。

アピールポイント

子育ては情報ではないので我が子のことは検索しても出てこないし、AIが答えてくれたとしても、結局「他の人がどうやっているのか」直に見聞きできないと初めての育児は不安ばかり大きくなりがちです。電話をしない世代は直接人と話すことや困り事を相談することにも慎重です。でも、コロナで交流が細くなったときでも誰かと会えるひろばのニーズは高く、参加者は絶えませんでした。赤ちゃんは私たちみんなの「未来」なので、これからもにぎやかで居心地の良い「集いの場」を続けていきたいと思えます。

活動名：う～みやスマイルこども食堂

団体名：株式会社アムズシーヴィエス

活動内容	子ども食堂、学習相談室
開催日時	毎日開催 16:00~18:30
開催場所	沖縄すろ～ふ～どう～みや飯田橋神楽坂下店
対象者	0才~18才（高校生まで）、保護者



活動紹介

- ・自分でおにぎりを作る（メイン、サラダ、スープは食堂から提供）
- ・挨拶をする（こんにちは、いただきます、ごちそうさまでした、ありがとうございます）
- ・食事を希望しない場合でも開催期間中は居場所として利用可能（絵本、折り紙、お絵描き道具などあり）

活動を始めた目的

現在、社会問題となっている子供の孤食、又、核家族・少子化により地域社会の人間関係も希薄化しており以前に比べ圧倒的に子供たちがさまざまな人たちとかかわりあう機会が少なくなっている。

変化が激しく、価値観が多様化していく社会で、子供たちが心身共に豊かに成長していくためには、自分の価値観や行動、判断の指針をしっかりと持ち、多様な人と繋がり信頼関係を築く力を育むことが大切である。

子供たちが人と多く関わり合い、大きくなった時に必要な社会を生きていく力を少しでも身に着けられるそんな場所を創りたいと思った。

食の事業者として、未来を担う子供たちの為、生きる土台となる（食）のサポートを行いながら元気に食べ、遊び、学ぶ、多くの人たちと触れ合いながら、人の価値観や想いを感じ、子供たちが安心して過ごせる、地域にとって必要な場所を創りたいと考えた。

令和7年度活動実績（令和8年2月14日時点）

【活動回数】 合計：320回

【延べ参加人数】 子ども：159名、保護者：88名、スタッフ：4名

活動をしていく中で感じたこと

子ども食堂は困っている人しか利用できないと思っている方が多いが、交流の場や保護者が帰ってくるまで待っている場など、居場所としても利用できることを広めていきたい。

アピールポイント

「自分でできることは自分でやろう」という方針のもと、できないことに対しても挑戦して、できることを増やしていくなど、大人になったとき少しでも役立つ環境づくりに重点を置いている。

活動の中で協調性が生まれ、出来ることの喜びを体験を通して得られると思っている。

活動名：多文化交流会

団体名：NPO 法人みんなのおうち

活動内容	新宿区在住の外国人と日本人の交流
開催日時	1月17日
開催場所	大久保地域センター
対象者	新宿区在住外国人と日本人 外国ルーツの子どもと保護者、地域在住日本人



活動紹介

多国籍料理を提供しながら外国ルーツの人々と地域在住日本人との交流を目指す。

活動を始めた目的

新宿区に在住の外国人と地域住民との交流促進を図るため。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：1回

【延べ参加人数】 子ども 49名、保護者 52名、ボランティア 15名、スタッフ 5名

活動をしていく中で感じたこと

活動の準備が保護者や大人のボランティアが中心であったのが、特に今回は活動が親世代から子ども世代へと継承されている。特に後片付けは子ども世代が積極的に仕切ってくれた。結果、終了時間は適切になった。

アピールポイント

新宿区には多くの外国籍住民や外国ルーツの子どもたちが居住している。特に大久保地域には集中しているので、当団体が多文化共生を目指しているため、多文化交流会は地域に根差した活動と考えている。



活動名：サンの家食堂

団体名：社会福祉法人サン

活動内容	多世代食堂
開催日時	毎月第1、3金曜日 第4土曜日（変更あり）
開催場所	サンの家カフェ
対象者	子育て世帯を中心にご事情により受付いたします。

活動紹介

- ・令和7年11月で7年目を迎えた会食と御弁当を併用した食堂です。
- ・食事提供の他、食品や日用品などの配布も行っています。
- ・ボリュームや栄養バランス、見た目にも拘ったほとんどが手作りの食事になります。

活動を始めた目的

- ・地域にお住まいの皆さまの活動したい意向と社会福祉法人としての地域貢献の取組、また必要とされるご家庭があるという現状や子どもの居場所にもなると思い始めました。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：32回

【延べ参加人数】 子ども：1,187名、保護者：750名、
ボランティア：109名、スタッフ：70名

活動をしていく中で感じたこと

- ・食事提供の他に、人や地域との関わりとしての意味が大きくなっていると感じています。
- ・様々な事情のご家庭や子どもがおり、必要に応じて関係機関との情報交換や連携が必要だとも感じています。

アピールポイント

- ・「また行ってみたい」と思っただけのように、コミュニケーションや会場の装飾などにも気を使っています。
- ・食事などを提供する場ではありますが、支援の有無は関係なく楽しめる時間と空間づくりに努めています。



活動名：薬物乱用防止コンサート

団体名：新宿区更生保護女性会

活動内容	新宿区立中学校の生徒による音楽コンサート
開催日時	12月6日
開催場所	牛込笹塚区民ホール
対象者	新宿区立中学校の生徒・父兄・学校の関係者



活動紹介

区立中学校の生徒の吹奏楽の演奏会を開催し、演奏の間に牛込警察署の方から薬害について講演していただきました。

活動を始めた目的

薬物乱用防止活動の取組みです。

区立中学校の生徒・父兄・学校の関係者に薬害について知ってもらうことが目的です。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：1回

【延べ参加人数】 子ども：58名、保護者148名、ボランティア：26名、スタッフ：17名

活動をしていく中で感じたこと

新宿区内は違法薬物に関する事案がニュースになることがあり、各区立中学校で薬害の授業をしているが、生徒の家族には説明の機会がないので、生徒の吹奏楽の演奏会を開催し、演奏の間に、牛込警察署から薬害についてお話をすることにいたしました。

薬害について中学生や多くの方に知ってもらうことが目的でしたが、中学校の合同行事を開催することにより、学校間の連携や生徒たちが協力することがあり、大きな成果がありました。

アピールポイント

区立中学校の生徒・父兄・学校の関係者に薬害について知ってもらうことが目的の行事としてはじめましたが、区立中学校の音楽の発表を広いホールで開催することは、生徒にとって新たな目標となっています。

吹奏楽部の人数が少ない中学校は、他校と合同で演奏することで、多くの楽器で音が広がり、また新たな友達も増え、今までにない楽しい活動になっています。

活動名：う～みやスマイルこども食堂 沖縄料理体験
団体名：株式会社アムズシーヴィエス

活動内容	料理づくり体験
開催日時	6/15、8/17、12/21、3/1 11時～14時
開催場所	沖縄すろ～ふ～どう～みや飯田橋神楽坂下店
対象者	0才～18才（高校生まで）、保護者



活動紹介

- ・料理に挑戦し、出来た喜び、成功体験を経て食の大切さを学ぶ。また、自分で作った料理をおもちゃのお金でスタッフに買ってもらい、そのお金で景品と交換する（商い体験）をする。
- ・頑張ったご褒美に沖縄のお菓子を配り、新たな意欲に繋げる。
- ・「本物の沖縄を伝える」という経営理念の元、子供たちに料理、空間を通して沖縄を伝える。

【内容】6/15 オニササ・どら焼き、8/17 島餃子・デザート餃子、
12/21 チキンライス・クリスマスケーキ、3/1 ちらし寿司・じーまみパフェ

活動を始めた目的

食の事業者として、未来を担う子供たちのため、まずは生きる土台となる（食）のサポートを行いながら、元気に食べ、遊び、学ぶ、多くの人たちと触れ合いながら、人の価値観や思いを感じ子供たちが安心して過ごせる、地域にとって必要な場所を創りたい。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：3回

【延べ参加人数】 子ども：34名、保護者：25名、スタッフ：16名

活動をしていく中で感じたこと

共働きや家事があり、親子で一緒に何かをする時間が取れていないとの声が多くあった。イベントを通して親子の絆が深くなり、子供たちも他の子と関わりを持つ中で社会性が育つと思った。これからも料理体験を通し、子供たちが大人になって少しでも役立つ活動を続けていきたい。

アピールポイント

「自分でできることは自分でやろう」という方針のもと、できないことに対しても挑戦して、できることを増やしていくなど、大人になったとき少しでも役立つ環境づくりに重点を置いている。

活動の中で協調性が生まれ、出来ることの喜びを体験を通して得られると思っている。

活動名：大久保スポーツ広場

団体名：大久保地域文化スポーツ広場

活動内容	スポーツ体験
開催日時	毎週日曜日
開催場所	大久保小学校・戸山小学校
対象者	どなたでも



活動紹介

- ・大久保小学校の校庭ではタグラグビー、フットサル、モルックを行い、体育館ではユニカール、ポッチャを行っている。
- ・戸山小学校の校庭ではグラウンドゴルフ、体育館ではパドルテニスを行っている。
- ・未就学児童から高齢者までのスポーツ広場として開催している。

活動を始めた目的

大久保地域でスポーツを楽しめる地域のコミュニケーションを図る場として、スポーツ推進委員が中心となり、地域（町会）・PTA を含めた方々で設立し、運営している。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：48回

【延べ参加人数】 子ども 960名、保護者：1440名、
ボランティア：384名、スタッフ：192名

活動をしていく中で感じたこと

区内でのスポーツ施設が不足していることから、学校施設を開放することで地域の子どもの体を作りつつ、心の健康を守ることが必要であり、幼児から高齢者までが自由に参加できる場所が大切だと感じている。

アピールポイント

大久保スポーツ広場は大久保小学校や戸山小学校やPTAの方々や地域住民の協力のもと、毎週日曜日に地域住民がスポーツを楽しめる環境を提供できており、理解者や参加者も毎年増加している。

活動名：四谷ツインズ交流会

団体名：四谷ツインズの会

活動内容	双子（多胎児）家族の交流会
開催日時	毎月第一金曜日 10:00～11:30 (6/6、7/4、10/3、11/7、12/5、2/6)
開催場所	四谷保健センター5階集会室
対象者	双子（多胎児）育児中の家族



活動紹介

双子（多胎児）を育てる家族のための交流会。子どもはボランティアが遊ばせながら見守りますので親同士でゆっくりお話しすることができます。双子育児ならではの育児情報、悩みなど話せる憩いの場を提供しています。

活動を始めた目的

2014年より活動を開始。双子（多胎児）育児は時間的にも身体的、精神的にも母親に大きな負担がかかります。乳児を二人以上連れて外出することは母親一人では非常に困難な状況です。母親が一人で悩みを抱え込むことのないよう、同じ双子育児を経験している仲間が集い喜びや悩みを語り、分かち合える場を作るとともに子どもたちが安心して遊ぶことのできる場所・環境を提供することで、母親と家族を支援する目的で活動を始めました。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 6回（9月は台風のため中止）

【延べ参加人数】 子ども：35名、保護者：23名、ボランティア：3名、スタッフ：41名

活動をしていく中で感じたこと

- 双子の上に3～7歳年上の兄・姉がいる家庭が本年度は3組参加しています。上の子の世話や兄弟関係を配慮しながら子育てをする母親への理解と継続的な支援の必要性を感じています。
- 子どもの成長とともに、母親も着実に成長していく姿が見られました。
- 1歳頃から保育園に入園する子どもや転居をする家庭も多く、参加者の定着や増加が課題となっています。

アピールポイント

- 10年以上、活動を継続しています。
- 母親および家族に寄り添った支援を行っています。
- 人見知りや大泣き、イヤイヤ期など不安定な時期も含め、子どものありのままの姿を受け入れています。
- 前向きな双子育児をして成長している母親の姿が、次世代のよきロールモデルになっています。
- スタッフ間のコミュニケーションは円滑で、保健センターなど関係機関との連携も良好です。

活動名：四谷ツインズ 10 周年ファミリーデー
団体名：四谷ツインズの会

活動内容	四谷ツインズ 10 周年ファミリーデー
開催日時	5 月 17 日 10:00~11:30
開催場所	四谷保健センター5 階集会室
対象者	双子育児中の家族



活動紹介

2014 年創設より四谷ツインズに参加した双子家族の交流会。懸案だった土曜日開催を実現するとともに 10 周年を記念し、両親、兄弟も含めた家族全員で楽しめる会としました。

活動を始めた目的

平日は両親が仕事をして、双子は保育園・幼稚園・小学校へ通っている家庭が多い状況です。土曜日に、四谷ツインズを卒業した家庭と現在交流会に参加している家庭双方が、家族ぐるみで交流できる場を設け親睦を深めることを目的に開催しました。

令和 7 年度活動実績（令和 8 年 2 月末時点）

【活動回数】 1 回

【延べ参加人数】 子ども 30 名、保護者 24 名、ボランティア 6 名、スタッフ 7 名

活動をしていく中で感じたこと

- 15 家族が参加しました。平日は参加が難しい家庭や父親 9 名の参加もあり、土曜開催の意義を実感しました。
- 乳児期から参加していた双子が小学生に成長した姿や、親同士が再会や成長を喜び合う様子も見られました。
- 衣類や玩具などの寄付も多数あり、参加者同士が支え合う関係性も感じました。
- 父親同士乳児を抱っこして子育てについて語り合う姿もあり、父親を含めた交流の場を提供する必要性を感じました。

アピールポイント

- 土曜開催で平日には参加できない家庭も参加することができました。今後も土曜（日曜）開催の検討をしています。
- 乳幼児から小学生まで年齢に合わせた、遊び場や工作コーナーなどを工夫しました。また、年齢を越えて一緒に楽しめるよう、大布遊びやパネルシアターなど企画、実施しました。
- 大学生や地域のボランティアが 6 名参加し活動を支援いただきました。四谷ツインズの取り組みを広く知っていただく機会にもなりました。
- 後日実施した参加者アンケートは好評で、「とても良かった」との声も多数寄せられました。

活動名：わかまつ子ども食堂

団体名：わかまつ子ども食堂

活動内容	子ども食堂
開催日時	毎月第1・3木曜日 17時30分～19時30分
開催場所	新宿区若松町8番3号
対象者	子ども、保護者



活動紹介

地域の子どもから大人までを対象に、毎月第1・3木曜日に新宿区若松町で活動しています。手作りの温かい食事を提供するとともに、各家庭からの悩み相談も受け付けています。公式LINEでの予約制を導入し、大人300円、子ども100円で誰もが気軽に参加できる、笑顔あふれる温かい居場所づくりを目指しています。

活動を始めた目的

未来への希望である子どもたちの笑顔を育み、誰もが安心して集える温かい居場所を創造するために活動を開始しました。都心で希薄になりがちな人と人のつながりを再生し、孤食や育児の孤立を防ぐことが目的です。人種や経済状況、障がいの有無に関わらず、すべての人を差別なく受け入れ、地域社会全体で支え合う豊かな交流の基盤を築き、子どもたちが笑顔で成長できる社会を目指しています。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：22回

【延べ参加人数】 子ども：496名、保護者：329名、ボランティア：298名、スタッフ：69名

活動をしていく中で感じたこと

保護者からは家事負担の軽減に繋がるとの声があり、子どもたちは中高大の学生ボランティアのお兄さん、お姉さんと遊ぶことを毎回楽しみにしています。学生側も子どもたちとの交流を心待ちにしており、保護者・子ども・ボランティアの三者の関係性が非常に良好です。運営側も子どもたちと接することに生きがいを感じており、多世代が支え合い笑顔になれる居場所の価値を強く実感しています。

アピールポイント

最大の特徴は、登録ボランティアが400名を超え、その大半が中学生以上の学生である点です。世代が近い学生ならではの親和性を活かし、子どもたちが「自分らしさ」を発揮できる場を創出しています。また、ボランティア・クレドによる主体性・公共性・無償性の精神を共有し、「5つの約束」で安全と衛生管理を徹底しています。新宿区社会福祉協議会等との密な連携に加え、対話を重視した食卓のデザインにより、子どもたちが「大切にされている」と感じられる質の高い居場所を地域全体で支えています。

活動名：みんな食堂

団体名：NPO 法人キッズ未来プロジェクト

活動内容	共食を目的とした子どもは無料、 大人は 300 円以上の食堂
開催日時	月に 1 回
開催場所	新宿区中落合 1-3-5 落合道場 4 階
対象者	こどもとその保護者 75 歳以上の高齢者



活動紹介

予約制、予約した人数分の食事を用意し、会議室で一緒に食べる

活動を始めた目的

落合地域にはこども食堂が少ない。ニーズに答えたいと開始した。無料で場所を提供してもらえ、助かっている。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 合計：11回 448世帯

【延べ参加人数】 子ども：159名、保護者：99名、

高齢者ボランティア：98名、ボランティア：63名、スタッフ：11名

活動をしていく中で感じたこと

- ・ご高齢者もこども一緒にの食事は楽しそうです。
- ・5階でライブやフリーマーケットを開催してくれると、利用が増える。

アピールポイント

- ・こどもと保護者だけでなく、高齢者が参加することで良い影響を与えている。

活動名： ☆わくわく☆クリスマスタウン

団体名：(特非) あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場

活動内容	新宿文化センター大ホールのホワイエと地下展示室を利用して、地域団体や大学生サークル団体、企業などの出展団体を募り、子どもたちにワークショップを提供してもらおう。その活動を通じて子どもたちに多様な人との交流や体験をしてもらう。
開催日時	2025年12月21日(日) 11時~14時
開催場所	新宿文化センター大ホール&地下1階 展示室
対象者	幼児から小学生、大人



活動紹介

参加者はスタンプカードをもらい、シュシュづくり・毛糸でアート・バッチづくり・クリスマスカード作り・画用紙でリース作り・京面づくり・松ぼっくり工作・紙コップロケットづくり・廃材ゲーム・こまの体験、計9つのコーナーから3つ選んで参加。物販や自由コーナーもあり、それぞれ好きな体験コーナーに参加した。

活動を始めた目的

新宿文化センターのリニューアルに合わせて記念公演オペラ「森は生きている」を開催。その前の時間を利用して、鑑賞に来ない子どもたちに来館してもらい、新宿の文化の拠点となる新宿文化センターが子どもたちの居場所の一つとなることを体験してもらおう。体験格差が話題になる中、大学生から地域の企業、民間団体など様々な人が関わるワークショップに子どもたちが参加して多世代の交流や多様な体験を楽しむ機会をつくる。

令和7年度活動実績(令和8年2月末時点)

【活動回数】合計：1回 【延べ参加人数】307名、 スタッフ：71名

活動をしていく中で感じたこと

社会福祉協議会のつながりや、地元で活動している団体、企業などいろいろな関わりを通して出店団体を見つけることができた。実施後各団体から、子どもたちと関わって楽しかった。良かったとの感想を得られた。また、当日はプロの方(こまのたけちゃん)にパフォーマンスを披露してもらい、その後、体験もあり、子どもから大人までが一緒に楽しんでいる様子が見られた。自由コーナーは、時間の制限もなかったので、自由に遊ぶ様子が見られてよかった。

アピールポイント

2025年は当団体が創立50周年を迎える記念の年でした。私たちは「すべての子どもたちに豊かな文化を！」を掲げてこの新宿で活動しています。数年前より子どもの体験格差が問題となっています。経済格差だけでなく情報格差や体験格差の連鎖、大人の多忙感などが原因と言われています。この助成金を得ることで、出店団体はやってみたい内容のワークショップを企画することができ、また、プロのパフォーマーを呼ぶこともでき、新宿の多くの子どもたちに、様々な人との関わりや、多様な体験の機会が届けられました。

活動名： おはなしの森 うごく絵本シアター
団体名：戸塚第二小学校図書ボランティア

活動内容	絵本のスライド上映とアフレコによる読み聞かせ
開催日時	9月26日、11月26日
開催場所	戸塚第二小学校、中落合こども家庭支援センター
対象者	小学生



活動紹介

新宿区立戸塚第二小学校の保護者による図書ボランティアです。私たちは、子どもたちが物語の世界をより楽しめるよう、絵本をPowerPointで動画化し、生のアフレコを添えて上映する活動を行っています。デジタルの迫力と人の声の温もりを届け、読書への興味を育むお手伝いをしています。

活動を始めた目的

私たちは日頃、月2回の読み聞かせを行っていますが、「もっと子どもたちが絵本を楽しむ方法はないか」と考え、この活動を始めました。従来の読み聞かせの良さも活かしつつ、動く絵と臨場感あふれるアフレコでの絵本の物語を伝え、五感に響く新しい読書体験を届け、読書への好奇心を最大限に引き出すことを目指しています。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 2回

【延べ参加人数】 子ども 329名、保護者 2名、ボランティア 0名、スタッフ 27名

活動をしていく中で感じたこと

最初は試行錯誤の連続でしたが、スクリーンで動く絵と臨場感あふれるアフレコに、子どもたちが見入る姿を見て、この手法ならではの魅力を再発見しました。

物語の展開に合わせて一喜一憂し、上映後に「面白かった!」「セリフが役者さんみたいだった」という子どもたちの感想が私たちの大きな原動力です。読み聞かせに「動き」と「音」が加わることで、本の世界がより身近に、ダイレクトに子どもたちに届く手応えを日々感じています。

アピールポイント

私たちの活動の最大の特徴は、従来の読み聞かせにデジタルとライブパフォーマンスを掛け合わせた「シアター体験」です。

メンバーには元演劇経験者や現役の俳優、プロの音楽家など多彩な才能を持つ保護者が揃っており、その専門性を活かしたアフレコや音響演出によって、作品の質は年々向上しています。PowerPointで動かした絵に確かな表現力を加えることで、一つの「舞台作品」に近いワクワク感を生み出し、普段本を手にとらない子にも「本の世界はこんなにダイナミックなんだ!」という驚きと感動をダイレクトに届けています。

活動名：親子で楽しむ クリスマスコンサート
団体名：マミューズ

活動内容	親子向けクラシックの クリスマスコンサート
開催日時	12月21日 11:00～、14:30～
開催場所	新宿文化センター 小ホール 新宿区新宿 6-14-1
対象者	地域の方々、子どもとその保護者、 祖父母など多世代が対象



活動紹介

このコンサートは、普段クラシック音楽に馴染みのない方々にも親子でお楽しみいただけるクリスマスシーズンにふさわしい選曲でお届けします。キャパシティの少ない小ホールですので、小さな会場で演奏者や歌のお姉さんとの距離も近く、手遊び歌や歌のお姉さんの先導のもと管弦打楽器とピアノの伴奏でクリスマス・ソングをみんなで歌おうという「参加型のコンサート」をコンセプトとしています。

活動を始めた目的

私たちは国内唯一のプロフェッショナルなマザーズオーケストラというほかにない特性を活かし、本格的なオーケストラや室内楽公演を通じた子どもの育成や子育て世代の応援、演奏活動を通じた地域芸術文化振興を趣旨として、母親目線で企画演出を行いコンサートを開催しています。生の演奏を聴く機会の少ない乳幼児から児童、その保護者を対象に気軽に聴けるコンサートを開催することで、親子のコミュニケーションの場を提供したいと考えています。生の音楽に触れ感じることで、子どもたちの豊かな感性を育み、親子で楽しめるコンサートになるよう企画しています。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 1回

【延べ参加人数】子ども 153名、保護者 246名、ボランティア 0名、スタッフ 18名

活動をしていく中で感じたこと

小さなお子様が席から立ったり、ぐずったりする事もありますが、お客様皆様が温かく受け入れてくれて一緒にコンサートを楽しんでくれていました。アンケートの結果、楽しかった、一緒に歌えるなど参加出来て良かった、といった感想を沢山いただき、またリピーターのお客様も多くいらっしゃり、これまで続けてきた活動の成果を感じられました。

アピールポイント

新宿文化センターはおむつ替えスペースや授乳室もあり、ベビーカーも預けることもできるため、小さなお子さまと一緒に出かけしやすい環境です。全席自由・入退場自由(途中退席可)とし、途中お子さまが多少騒いでしまったり泣いてしまったりしても大丈夫なようにコンサートマナーを設定しています。また、高い演奏技術を持つプロのクラシック演奏家のコンサートとしては大変リーズナブルな価格設定となっております。そのため、多様なバックグラウンドをお持ちのお子さま、子育て世代のみならず、一般のお客様に広くご来場いただきやすい公演となっております。

※広報新宿にて、チケットプレゼントの掲載記事あり。

活動名：オーケストラマミューズへようこそ～
音楽の森へ出かけよう～
団体名：マミューズ

活動内容	0歳児から入場可の本格的オーケストラコンサート
開催日時	2月28日 1回(午前・午後2回公演)
開催場所	四谷区民ホール
対象者	新宿区在住を中心とした親子、子育て世代、地域の方



活動紹介

当コンサートはお話仕立てで大きな編成のオーケストラと歌を鑑賞いただく「鑑賞型のコンサート」です。指揮者の馬場武蔵氏をお迎えし、生のクラシックの音楽に触れ感じることで、また基本的なコンサート鑑賞のマナーを学んでいただくことで子どもたちの情操教育に寄与し、親子で楽しめるコンサートになるよう企画しています。

活動を始めた目的

私たちは国内唯一のプロフェッショナルなマザーズオーケストラという他にない特性を活かし、本格的なオーケストラや室内楽公演を通じた子供の育成や子育て世代の応援、演奏活動を通じた地域芸術文化振興を趣旨として、母親目線で企画演出を行いコンサートを開催しています。コンサートを開催することで、身近に音楽にふれる機会を作ると共に、親子のコミュニケーションの場を提供したいと考えています。

令和7年度活動実績（令和8年2月末時点）

【活動回数】 1回

【延べ参加人数】 午前：大人139名/子ども114名、午後：大人110名/子ども95名

活動をしていく中で感じたこと

0歳児から入場できるオーケストラコンサートは潜在的な需要があると感じました。当日は指揮者体験の時間もとり、出演者、来場者が一体となり、一緒に音楽を楽しむ時間を共有しました。役員を決め、それぞれの担当部署にて働き、それにより広報、会計、全体管理などコンサート開催に皆で動いて進められました。今回は開催が土曜日だった事により、いつもより集客に苦戦しましたが、最終的にはたくさんのお客様に来場いただき開催できました。

アピールポイント

当コンサートは本格的な広いコンサートホールで基本的なコンサートでのマナーを学びながら、大きな編成のオーケストラの音楽、生の音色に触れていただく「鑑賞型のコンサート」を目的としています。オーケストラの様々な楽器のしくみと音色などの楽器紹介のコーナーもあります。公演内容は、日頃お子さまや子育て世代の方々が触れることの多い童謡、映画音楽などから選曲をし、司会によるお話仕立てでコンサートが進行します。全体のプログラムを1時間で構成しており、コンサート鑑賞デビューとしてもおすすめの内容で構成しております。

活動名：ちびっこ野球教室「大谷グローブDAY」パートⅡ

団体名：新宿区少年軟式野球連盟

活動内容	大谷翔平選手が日本の小学校に贈ったグローブを使い、グローブの使い方をはじめ、キャッチボールなどの野球の基礎を楽しく学ぶ。
開催日時	令和8年3月15日（日） 予備日3月22日（日）
開催場所	新宿区立西戸山公園野球場（新宿区百人町4-1）
対象者	現在小学校1～3年生の男女（保護者、引率者帯同に限る）

活動紹介

区内の各小学校から借用したグローブを使い、グローブのはめ方、ボールの持ち方、ボールの投げ方、取り方などを指導するほか、ベースランニングなども行う。また、上級者にはティーボールでの試合も考えている。

活動を始めた目的

令和6年3月ごろに大谷翔平選手から日本の小学校にグローブが寄贈された。話題にはなったがそのグローブを有効に使っている学校は少ない。そこで平成6年11月に「大谷グローブ DAY」と銘打って、各小学校からグローブを借り受け一堂に集め、それを使って野球初心者の子供たちに正しく野球を知ってもらおうというのが主な目的である。これにより大谷選手の「野球しようぜ」というメッセージにも応えられる。

令和7年度活動実績（令和8年3月末時点）

【活動回数】 1回

【参加予定人数】 子ども：180名、保護者：90名、ボランティア：60名、スタッフ：30名

活動をしていく中で感じたこと

各小学校では活動趣旨に理解を示してくれ、当連盟所属チームにグローブを貸してくれた。

また今年はWBCが日本でも行われることもあり、野球興味が盛り上げている。

サッカーのワールドカップもあり、スポーツ熱が高まっている昨今、このようなチャンスに実際にスポーツを体験してもらえれば健全である。

アピールポイント

野球人気は高まってきているが、少年野球の人口は減少傾向である。校庭や、広場で野球をすることができない。街に指導者がいない。野球というものに触れる機会が少ない現代において、安全な場所で、正しい知識を持った指導者が、楽しく野球を教えていく機会を作っていくことが重要。



当連盟では年に2回ほどこのような「ちびっこ野球教室」を開催していきたいと思っている。